

2017. 3. 30.

堀口先生へ

先生、ありがとうございました。

わたし 先生に手術していただいて ちょうど 3年になります。

先生に どうしてもお礼をいいたくて、失礼とは思いますが手紙を出します。

わたし、2014年の3月に九州の  
病院で 尿道狭窄症 の手術を、先生に  
いただきました。

病院の泌尿器科の 先生によって定期的  
に検診をしていただいております。経過が良いと喜んで  
いただいております。

おかげさまで 日常生活を快適に 送ることができて  
います。

膀胱に 管を 挿入して 袋をさげて 1年間も  
過ごした 苦痛 を時々 忘れかけています。

現在、何の異常もないことを 先生にお伝えして喜んで  
いただこうと思い、 堀口先生に手紙を

出していいですかと 相談しました。手紙を出していいと返事をいただき、異常なしということで嬉しさで堀口先生に手紙をだします。先生にご足労をおかけしたことが何時も頭をよぎります。ありがとうございました。

私一人のために、埼玉県の遠い所から出張していただき、手術の重労働をして疲労を癒さず、休む暇もなくすぐ帰られたと聞き、気のどくやら感謝やらで何とも言えない いたたまらない気持ちでいます。

先生のおかげで日常生活にもなれて、不自由なく過ごすことが出来ています。

わたし、2013年の4月28日に、イスの上にあがり、押入れの上の方をあたっていて、何の拍子かイスもろとも転んで、おしりを打ったのは分るのですが、そして別の部屋でイスに座り本を読もうとして、何か、おしりが冷たく感じて気持ちが悪くなり、トイレに行ったらパンツやズボンが真っ赤で ペニスからものすごい勢いで血が噴きだしており、便器がまたたく間に血で真っ赤になり、すぐさま救急車を呼んで家から10分

の 病院に突入しました。救急車で運ばれる救急車のベッドまで血で汚し、土曜日ではあり、どうゆう訳かその日は救急患者が集中し、わたしは待たされ、ああ、これで出血多量のために このまま黄泉の世界へとまっしぐらに、我が人生はこれまでかと死を 覚悟しました。膀胱路での生活が1年続きました。

先生に、手術をしていただいて、膀胱路が取れ、1年ぶりに風呂の浴槽に入れた時には、何とも言えぬ至福を味わいました。日頃 風呂の浴槽に入っても何ら感じないのですが、浴槽に入れた時には最高でした。

ケガをしてより、いまだにずっと何であんな所を打ってケガをしたのだろうと思っています。おしりとかだったら解るのですが？ かくれた所を打つなんて。

正常な生活が出来ていますので、先生安心して下さい。まだ、まだ、長生きして(80歳)、これからの人生を楽しく過ごそうと思っています。これからの余生を健康で送ります。

---

先生 ありがとうございます。！！  
かさねて、ありがとうございます！！！！。